

研究構想図

【学校教育目標】

人間尊重の精神を基調として、心身ともに健康で、学ぶ意欲をもち、創造的な思考力・判断力・表現力や豊かな情操を備え、国際社会において信頼され、すすんで貢献する人間性あふれる児童を育てる。

そのために「知ることから生きることへ」を教育理念として、次の目指す児童像を設定する。

◎やさしく ○かしこく ○たくましく

目指す児童像 「主体的に読み、表現する児童」

低学年 重要な語や文を考えながら読む子。感じたことや分かったことを交流する子。

中学年 中心となる語や文を見付け要約しながら読む子。感じたことや考えたことを交流する子。

高学年 必要な情報や論の進め方について考えながら読む子。交流を通して、自分の考えを広げる子。

くすのき学級 内容の大体を捉えようとする子。感想をもったり交流したりする子。

きはだ学級 読んだことを理解しようとしたり、深めたりする子。考えたことを相手に分かりやすく伝えようとする子。

児童が主体的に読み、表現する指導の工夫

— 説明的な文章を通して —

【児童が主体的に読み、表現するための授業を構築する視点】

◎ユニバーサルデザイン（どの子にとっても分かりやすい授業の工夫）

（視覚化、構造化、ユニット化、焦点化、共有化、個別的な配慮、ICT の活用）

○読み取り方（学び方）→ 「説明文バッチリ手引き書」の活用

○言語活動の工夫（読むための必然性） ○語彙の習得

社会の要請

- ・新学習指導要領の実施
- ・社会に関わった教育課程
- ・インクルーシ

【児童の実態】

- ・読むことは好き。読み方や言語活動を指導すると、活用する力はある。
- ・正確に読み取ることができていない。
- ・読み取ったことを伝えることが難しく、表現を適切に選べない。
- ・知識は豊富だが、意味がつながっていない。いざというときに活用できない。

【本校の特徴】

- ・特別支援学級「くすのき学級」（知的障害）、「きはだ学級」（肢体不自由）を併設。
- ・今年度から、特別支援教室「すまいる」拠点校。・通常学級の中にも特別な支援を要する児童が多い。

児童が主体的に読み、考え、それを表現するためには、まず文章を正確に読む力を付けることが大切。その基礎となる文章の読み取り方の力を付けると共に、語彙力・表現力も増やしていく。

さらに、新学習指導要領・ユニバーサルデザインも意識した指導の工夫を探る。